

大型音楽フェスの開催支援と観光誘客

取組のあらまし

取組団体 宮崎県・宮崎県内の市町村

取組内容 宮崎県のキャッチフレーズ「日本のひなた宮崎県」と「ひなた」のフレーズでつながる、アイドルグループ「日向坂46」のライブコンサートを中心とした野外音楽イベント「ひなたフェス2024」がひなた宮崎県総合運動公園（宮崎市）で開催された。宮崎県及び県内の市町村では、各種支援・観光誘客のプロモーションを積極的に行い、地域経済の活性化に寄与した。

推進体制 4名（観光推進課2名・スポーツ振興課2名）（令和6年度）

予算等 550万円（委託料）（令和6年度）
その他、関係各課等の事業予算で対応。

1 宮崎県の概要

人口 1,048,347人 令和7年1月1日現在（住民基本台帳人口）

職員数 3,804人 令和7年4月1日現在（一般行政部門）

総面積 7,734.16km² 令和7年10月1日現在（国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」）

図表 1 宮崎県の位置図



出所：宮崎県ホームページ
(<https://www.pref.miyazaki.lg.jp/kids/sunderu.html>)

2 取組の背景・目的

(1) フェスと開催地域とのかかわり

大規模な音楽コンサートである「音楽フェスティバル」を指す「フェス」は、その開催規模等から、地域に対して様々な影響を与えている。

平成9年（1997年）に始まり、平成11年（1999年）から新潟県湯沢町で開催されているフジロックフェスティバルは、今日までに25回以上の開催回数を重ね、地域住民とのつながりを深めた事例として注目を集めている。

一方で、国内最大規模のフェスの一つ「ロック・イン・ジャパン・フェスティバル」は、茨城県ひたちなか市で平成12年（2000年）から開催されていたが、新型コロナウイルス感染症の影響による開催中止などを経て、令和4年（2022年）からは千葉県千葉市に開催会場が移転することとなった。ひたちなか市での開催時には33万7,400人（令和元年（2019年））の入込客数を誇る一大イベントであったこともあり、茨城県知事が移転に際してコメントを寄せるなど、地域経済や文化に対してフェスが与える影響は無視することができない状況となっている。

(2) 宮崎県における観光振興の状況

宮崎県は、「全国和牛能力共進会」において4大会連続で最高位の賞である内閣総理大臣賞を受賞している宮崎牛や、11年連続で日本一の出荷量を誇る本格焼酎などの「食」、温暖な気候とスポーツ施設の充実を背景にプロスポーツチーム等が合宿を行う「スポーツ」の聖地、世界農業遺産としても登録されている高千穂郷・椎葉山地域、霧島山を中心とした霧島ジオパーク、ユネスコエコパーク（綾／祖母・傾・大崩）を始めとする豊かな「自然」・「森林資源」、古事記に描かれた「神話」の舞台でもあるなど、恵まれた観光資源を有し、観光客を魅了している。

しかし、九州内からの観光客が大半で九州外からの来訪客が少ないこと、多くの観光客は日帰りであることもあり、比較可能な30県における観光消費額は23番目であることや、延べ宿泊者数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前と比べ、十分な回復を見せていないなどの課題があることから、県では総合計画及び観光振興計画に基づき、県の観光資源である5つのS（食・スポーツ・自然・森林資源・神話）等を活かした観光プロモーションを推進している。

(3) 日向坂46と宮崎県とのかかわり

ひなたぎか
日向坂46は、平成31年（2019年）2月に「けやき坂46」から改名して誕生した、日本を代表するアイドルグループの一つである。

日向坂 46 と宮崎県とのかかわりは、宮崎県のキャッチフレーズである「日本のひなた宮崎県」と日向坂 46 の「ひなた」のフレーズのつながりから、改名当初から県の紹介資料を送付するなどのやり取りを同グループが所属するマネジメント会社と重ね、県から「日向夏」を日向坂 46 に贈呈するなど、つながりを深めていった。

令和元年（2019 年）9 月には、同グループが出演するテレビ番組「日向坂で会いましょう」の撮影が宮崎県を舞台に行われ、県では、県知事及び県のシンボルキャラクター「みやぎき犬」の出演や、番組企画内での県産品の贈呈、県施設の使用料の減免等のサポートを行った。

その後、同年及び令和 2 年（2020 年）のNHK紅白歌合戦への出演を祝して祝電を送付するなど、継続的なアプローチを行ってきたが、新型コロナウイルス感染症の影響拡大を受け、コンタクトをとることを控えざるを得ない状況がありつつも、開催に向けた機運が醸成されていくこととなった。

こうした経緯から、令和 6 年（2024 年）4 月に、正式に 9 月 7 日（土）・8 日（日）の 2 日間の日程で、「ひなた宮崎県総合運動公園」（以下、「県総合運動公園」という。）を舞台に「ひなたフェス 2024」が開催されることが発表された。

3 取組内容

(1) 「ひなたフェス 2024」開催会場の事前準備と連携

日向坂 46 のコンサートの開催は、令和 5 年（2023 年）頃から検討が進められてきた。

宮崎県内では、これまでに、県総合運動公園内の陸上競技場でライブコンサート、宮崎市内のコンベンション施設でファッションショーが開催されていたが、大規模なイベントを開催できる施設が限られている状況にあった。

そうした中で、主催者である日向坂 46 のマネジメント会社から、メインとなるコンサート会場として、「ひなたサンマリスタジアム宮崎」（以下、「サンマリスタジアム」という。）を希望する旨を伝えられ、県側での検討が行われた。

サンマリスタジアムは、外野だけでなく内野も含め全面が天然芝である全国的にも数少ない形態で、プロ野球チームのキャンプや高校野球の大会などで活用され、日本野球聖地・名所 150 選にも選出されている国内屈指の球場でもある。

サンマリスタジアムが採用する天然芝は、人工芝と比べてクッション性が高く、選手の負担が少ないことから、プロスポーツでは高く評価される一方で、芝の上に過大な負荷がかかると芝が枯れてしまうほか、傷みが生じた部分を新たな芝で補修すると、定着に一定期間を要するため、イベント等の多目的な利用では支障となる要素も抱えていた。過去に、同スタジアムでの大規模イベント開催の希望を受けたこともあったが、別の場所での開催という結論に至った状況もあった。

今回の「ひなたフェス 2024」でも、毎年行われている高校野球の秋季大会、その後にはプロ野球チームのキャンプの開催が予定されていたことから、同じく天然芝球場であり、ライブコンサート会場としての利用もある阪神甲子園球場のグラウンド整備を担う事業者に、野球以外のライブコンサート等の利活用の実現可能性について調査業務を委託し、サンマリンスタジアムの現地確認や、阪神甲子園球場の視察などを踏まえ、野球のプレーに支障を出さずに利活用が可能となる目途がついたことから、芝の修復・養生期間を確保が可能な開催日程となるよう関係各所との調整も含め、指定管理者と連携して準備が進められた。

また、コンサート会場以外にも、コンサートのチケットを持つ者以外も参加できる様々なエリアが、県総合運動公園に広く設けられることとなった。

県総合運動公園内にある「第2陸上競技場」では飲食ブースや自治体・企業のPRブース、縁日やカプセルトイレなどファンが楽しめるコンテンツが並ぶ「ひなたエキスポ」が、「ひなた陸上競技場」の前では、キッチンカーなど飲食に関するブースが揃ったほか、競技場内のスタンドは日向坂46のファン（通称「おひさま」）同士のコミュニケーションができる「おひさまエリア」として開放、さらには屋外のイベントとなることから、熱中症対策等として、「ひなた武道館」を避暑エリア及び救護室とするなど、公園のほぼすべてを活用する計画であった。

これらもまた、本来スポーツを行うための施設であり、大規模なスポーツイベントの知見の積み重ねはあったものの、競技場内での火気を使った調理など、他の目的での利用がこれまでになかったことから、宮崎県・同公園有料公園施設の管理を行う指定管理者の公益財団法人宮崎県スポーツ施設協会・主催者が協議を重ね、主催者による養生の準備・設置方法やそれら資器材の搬入方法など、一つ一つ丁寧に確認していきながら、準備を進めていくこととなった。

メインイベントであるライブコンサートは、野球のナイター開催よりも、強い明るさで、大音量を継続的に発せられることが想定されるなど、近隣への影響が大きいことから、主催者側は、宮崎県や指定管理者、共催する地元企業と連携し、近隣の畜産農家への了承を取り付けるなど、地域住民の理解を得る取組も行われたほか、交通対策としてはこれまでのプロ野球キャンプなどの大規模スポーツイベント等の実績を基にした体制作りが行われた。

また、開催時期が9月で台風の襲来も見込まれていた中で、8月の日向灘地震や台風第10号が宮崎県を襲い、使用予定の施設に損傷が発生したことから修繕を急ピッチで進めるなど、開催に向けて万全の態勢を整えていった。

（2）開催機運の醸成と日向坂46との連携

フェスの開催に当たっては、宮崎県内のみならず、宮崎県外、特に首都圏からの日向坂46のファンの来場が多くなることが想定された。

フェスの開催以前から、いわゆる観光大使である「みやぎき大使」に日向坂 46 の委嘱を検討していたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり実現ができていなかった。フェスの開催を契機に、委嘱に向けた検討・調整が進められ、令和6年（2024年）8月に日向坂 46 グループ全体にみやぎき大使を委嘱し、宮崎県の魅力発信に向けた連携体制を構築した。

フェスの開催と合わせて行った観光誘客のプロモーション事業では、プロポーザル方式により令和6年（2024年）6月に事業者を選定し、本格的な準備が進められた。

県内全域で「ひなたフェス 2024」の機運を盛り上げ、全国各地から宮崎県を訪れる「おひさま」を歓迎する思いを伝えることをコンセプトに検討を進め、最終的には、当時のメンバーが27名で県の市町村数が26と近い数であったことから、県及び各市町村の計27か所とメンバー27名とのタイアップポスター・のぼりを掲出する取組の実施方針を決定した。

日向坂 46 のマネジメント会社との調整を経て、7月中旬には各市町村への協力依頼を发出し、紹介する地点等の選定・ポスターの設置場所の調整等を各市町村と協力して行い、開催前の8月23日から実施した。

これにより、宮崎市内だけでなく、フェスの開催前後に宮崎県内を「おひさま」が訪れるきっかけを作り、県内の魅力ある観光資源を体感する機会を提供することが可能になった。

図表 2 ポスターの紹介スポット等¹

市町村等	メンバー	紹介スポット等
宮崎県	佐々木久美	ひなたサンマリスタジアム宮崎
みやぎき 宮崎市	山下葉留花	青島
みやこのじょう 都城市	山口陽世	関之尾公園
のべおか 延岡市	平岡海月	あたらご 愛宕山
にちなん 日南市	平尾帆夏	日南一本釣りカツオ炙り重
こぼやし 小林市	清水理央	いこま 生駒高原
ひゅうが 日向市	松田好花	願いが叶うクルスの海
くしま 串間市	小坂菜緒	とみみき 都井岬
さいと 西都市	正源司陽子	鬼の窟 ^{いわや}
えびの市	加藤史帆	ミヤマキリシマ
みまた 三股町	森本茉莉	しいぼま 権八重公園
たかはる 高原町	丹生明里	みいけ 御池
くにとみ 国富町	小西夏菜実	ほけだけ 法華獄公園
あや 綾町	石塚瑤季	てるは 照葉大吊橋
たかなべ 高鍋町	富田鈴花	高鍋大師 ^{だいし}

¹ メンバーと市町村の配列は、当時キャプテンであった佐々木久美氏を宮崎県の担当とし、その他のメンバーの名前と市町村名をそれぞれ五十音順にしたときに、同順位になる組み合わせとした。

市町村等	メンバー	紹介スポット等
新 ^{しんとみ} 富町	高橋未来虹	国産ライチ
西 ^{にしめら} 米良村	東村芽依	令和の桃源郷おがわ作小屋村
木 ^{きじょう} 城町	河田陽菜	木城温泉館 湯らら
川 ^{かわみなみ} 南町	上村ひなの	かわみなみ PLATZ
都 ^つ 農町	濱岸ひより	矢 ^{やとぎ} 研の滝
門 ^{かどがわ} 川町	金村美玖	カンムリウミスズメ
諸 ^{もろつか} 塚村	渡辺莉奈	池の窪グリーンパーク
椎 ^{しいば} 葉村	高瀬愛奈	上椎葉ダム
美 ^{みさと} 郷町	宮地すみれ	美郷栗
高 ^{たかちほ} 千穂町	竹内希来里	高千穂峡
日 ^{ひのかげ} 之影町	藤嶋果歩	旧第三五ヶ瀬川橋梁
五 ^{ごかせ} ヶ瀬町	佐々木美玲	五ヶ瀬ハイランドスキー場

※宮崎県内の町は「ちょう」、村は「そん」。市区町村コード順。

図表 3 「ひなたフェス 2024」会場内に設置されたメンバーと各市町村等の紹介スポット等が掲載されたタイアップのぼり



© Seed & Flower LLC

さらにフェス当日には、県知事をはじめとして、県内の子供たちが「おひさま」の来訪を歓迎する旨のビデオメッセージを上映するなど、県全体での温かい歓迎の気持ちを伝える取組も行った。この取組では、各市町村もビデオメッセージの撮影・提供の協力を行った。

開催終了後の10月18日から12月31日までの期間には、当初掲出していたポスターをメンバーの直筆サインが入ったポスターに変更し、スマートフォンをかざすことでメンバーのメッセージ動画を視聴できる仕掛けをするなど、「ひなたフェス 2024」での盛り上がりを活かす取組を行っている。

この他にも、同プロモーション事業では、日向坂 46 の東京ドームでのコンサートに合わせて、タイアップのぼりやメンバーのサイン入りの開催記念パネル等を、新宿駅至近の県のアンテナショップ「新宿みやぎ館 KONNE」で掲出する取組、地元テレビ局制作番組にメンバー 2 名が出演し、県内の観光地体験やフルーツ収穫など県の魅力を発信する取組を行った。

また、県では「ひなたフェス 2024」にブースを出展し、鵜戸神宮（日南市）の神事で、日向坂 46 のメンバーも実際に体験をした「運玉投げ」を体験できるコーナーを設けるなど、観光イベントで行っている取組を日向坂 46 仕様にアレンジをして好評を得たほか、フェス翌日に地元日刊紙の「ひなたフェス 2024」初日を振り返る特集記事に、知事メッセージやタイアップポスターを掲載した広告を掲載するなど、様々な形で「おひさま」を歓迎する思いを発信した。

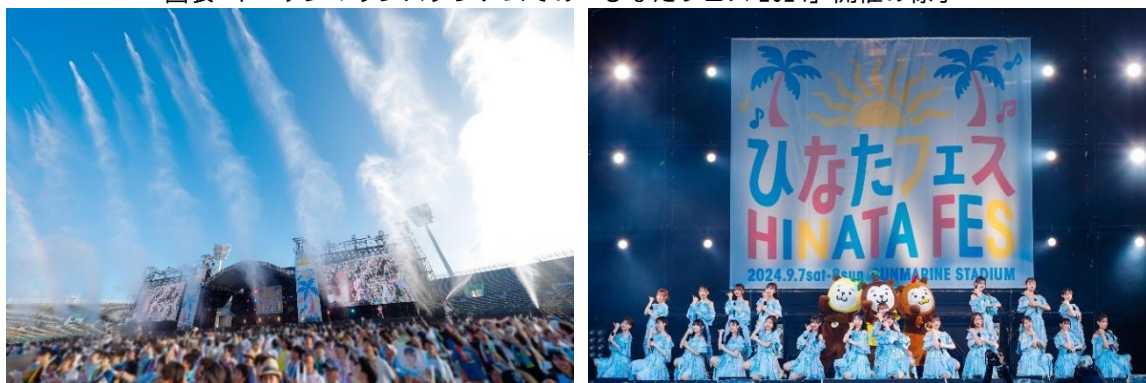
4 成果・課題

(1) 来場者数と来場者の動向

開催 1 か月前となる 8 月 8 日には、「日向灘地震」が発生し、宮崎県内の地点では震度 6 弱を観測し、住宅の損壊も見られるなどの被害があったほか、初めて「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が発表されたこともあり、県内の宿泊施設のキャンセルが相次ぐなど、8 月中旬の観光トップシーズンに甚大な影響があった。また、続く 8 月末には、竜巻とみられる突風が発生し住宅の損壊を県内各所で引き起こした令和 6 年台風 10 号の影響もあり、宮崎県内への観光客の入込への影響が懸念されていた。

しかし、「ひなたフェス 2024」当日までには天候が安定し、コンサートの入場者は主催者発表で、2 日間で約 4 万人と伝えられたほか、開催地である宮崎市が発表した推計値では、県総合運動公園周辺に訪れた人数は 2 日間で 5 万 6,000 人ほど、そのうち県内からの来訪者は 2 割程度であった一方、約 4 割は関東圏からの来訪という状況であった。

図表 4 サンマリスタジアムでの「ひなたフェス 2024」開催の様子



(写真左) 初めて野球以外のイベントで利用されたサンマリスタジアム

(写真右) ライブに出演する県シンボルキャラクター「みやぎ犬」

© Seed & Flower LLC

フェスの開催後には、県庁にある「みやぎ物産館 KONNE」に開店前から行列ができたほか、フェス開催後のタイアップ企画第2弾のために多くの「おひさま」が再び宮崎に滞在するなど、フェスだけにはとどまらない、「おひさま」と宮崎県とのかかわりが構築される契機となった。

これらのことから、数十億円相当の経済波及効果があったとする試算が、経済団体や大学の研究者などから出されるなど、その影響の大きさが推計されている。

宮崎県で行った取組以外にも、宮崎市では歓迎のバナーフラッグの掲示、日向市では期間限定で JR 日向市駅の愛称を「日向坂 46 駅」するなど、多くの企業・団体でさまざまな取組が行われたことにより、その効果がさらに高まり、県全体の PR に繋がった。

(2) 今後の展開

「ひなたフェス 2024」では、天然芝の野球場であるサンマリスタジアムのライブコンサートを実現させた。その後、同スタジアムは芝生の養生・復旧を「ひなたフェス 2024」主催者が主体となって実施するためにイベント後 10 日間、飲食ブースが並ぶ第2陸上競技場は 2 日間、その他の利用施設では翌日は設営物の撤去等のために利用できなかったが、以降の日程からは利用できるようになり、本来の用途であるスポーツ施設の利用に大きな影響を与えることはなかった。このことにより、スポーツに限られない、多目的な利用の可能性が開かれることとなった。

また、宮崎県では令和9年度（2027年度）に国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の開催が予定されており、県内各地でスポーツ施設の整備が進められている。

これらのことから、宮崎県では、県有スポーツ施設を活用した将来的なイベント開催に向けて調査を進めており、さらなる魅力の発信・イベント誘致に向けた体制作りに向けて検討を重ねている。

「みやぎ大使」として日向坂 46 は開催後も、メタバース上に再現された県の観光地を紹介するプロモーションイベントに参加するなど、「おひさま」などに宮崎の魅力の発信を引き続き行っている。

関連・参考資料

宮崎県, 2024, 「日向坂 46 が県・26 市町村の魅力を PR します！」

<https://www.pref.miyazaki.lg.jp/kanko-suishin/press/2024/08/20240823.html>

宮崎県, 2024, 「【第2弾】日向坂 46 が県・26 市町村の魅力を PR します！」

<https://www.pref.miyazaki.lg.jp/kanko-suishin/press/2024/10/202410181100.html>

宮崎県, 2024, 「宮崎県知事定例記者会見（2024年4月9日）」

<https://www.pref.miyazaki.lg.jp/kohosenryaku/kense/koho/20240507154433.html>

宮崎県, 2024, 「宮崎県知事定例記者会見（2024年10月18日）」

<https://www.pref.miyazaki.lg.jp/kohosenryaku/kense/koho/20241108104104.html>

宮崎県，2024，「知事コラム『こんにちは！ 河野です』 ひなたフェス 2024」『県広報みやぎ 令和6年12月号』394

<https://www.pref.miyazaki.lg.jp/contents/org/honbu/hisho/komiya/202412/column.html>

宮崎県，2023，「宮崎県観光振興計画」

https://www.pref.miyazaki.lg.jp/documents/53483/53483_20230731092619-1.pdf

宮崎市，2024，「令和6年9月26日市長定例記者会見」

<https://www.city.miyazaki.miyazaki.jp/mayor/conference2/391797.html>

齋藤直人，2024，「地域イベントの経済効果について ～宮崎県宮崎市の例～」『今週の指標』1363

<https://www5.cao.go.jp/keizai3/shihyo/2024/1112/1363.pdf>

茨城県，2022，「ROCK IN JAPAN FESTIVAL2022 開催地移転に係る知事談話」

<https://www.pref.ibaraki.jp/bugai/koho/hodo/chiji/danwa.html>